

TOSHIN Hearing NEWS

2021年3月発行

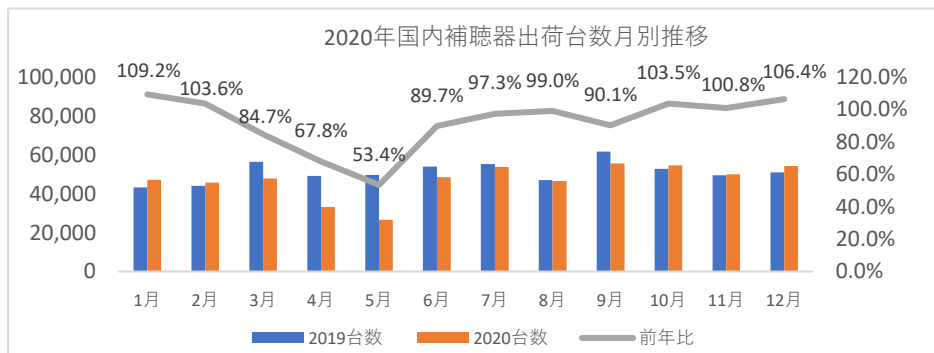
WHO が世界聴覚 DAY（3月3日）に World Report on Hearing を発表

世界保健機関（WHO）は世界聴覚 DAY である 2021 年 3 月 3 日のテーマとして「Hearing Care for All」を掲げ、それに合わせて World Report on Hearing を発表しました。本来であれば World Report on Hearing は昨年に発表される予定でしたが、コロナ禍の影響で 1 年遅れでの発表となりました。World Report on Hearing とは、2017 年に採択された世界保健総会決議を契機に、国民皆保険の普及に向けた取り組みの一環として WHO が作成した聞こえと聴覚ケアに関するレポートです。史上初の聴覚に関する国際的なレポートであり、文化や年齢、貧富の差に関係なく聴覚のコミュニケーションや教育、健康が保障される社会を目指して策定されました。加盟各国や関係機関に疫学のおよび財務的データを提示しており、耳と聴覚のケアを国の健康計画に包括し、聞こえのヘルスケアを公衆衛生の優先事項にするためのガイダンスといった内容になっています。前号でご紹介した Japan Hearing Vision もこのような世界的な難聴対策の高まりの一環であり、その理念であるライフサイクルに応じた難聴者(児)支援を実現するために作成されたものになります。

2020年(1月～12月) 国内補聴器出荷台数まとめ

～10-12月期ではオーダーメイド耳あな型が前年比130%に～

一般社団法人 日本補聴器工業会による国内補聴器出荷台数が発表され、2020年10～12月期は前年比103.8%となり、四半期では初の前年プラスとなった。これにより通期では49,832台減の563,257台となり前年比91.9%となった。とくに12月期は106.4%で昨年度最高の伸び率を記録し、形式別では10～12月期において耳あな型オーダーメイド補聴器が前年比130%となり、マスク着用による脱耳かけ型が更に進んでいることが示唆された。しかし、本年1月度は2度目の緊急事態宣言発出により一転し、前年比79.6%となり



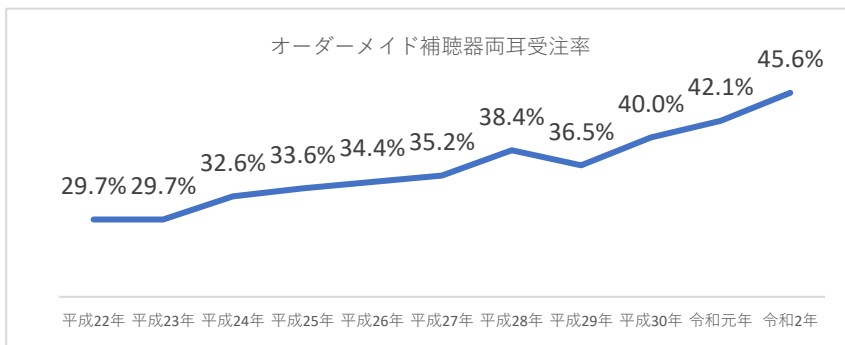
過去一年間の月別出荷台数では台数、前年比ともに3番目に悪い数字となった。希望小売価格帯別出荷調査では10～20万円未満が43.7%、20～30万円未満が23.8%、10万円未満が20.9%となり、10～20万円未満の補聴器の出荷が約半数を占め、その傾向に変化は見られなかった。

目次

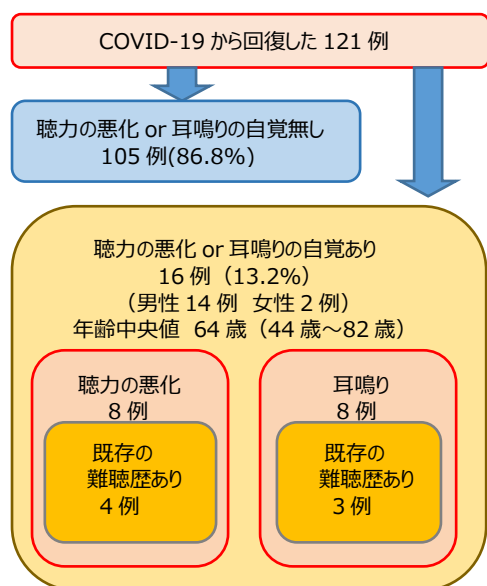
- WHO が世界聴覚 DAY(3月3日)に World Report on Hearing を発表
- 2020年(1～12月) 国内補聴器出荷台数まとめ
- COVID-19 後遺症で聴覚障害や耳鳴りの可能性も・・・
- コロナでピンチ！耳トラブルの新常識

～2020年度オーダーメイド補聴器両耳受注率45.6%～

日本補聴器工業会からオーダーメイド補聴器受注の際の両耳率が発表されました。3年連続の伸びを示しており、3年間で9.4ポイント増加し45.6%となりました。



COVID-19 後遺症で聴覚障害や耳鳴りの可能性も・・・



新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の後遺症には様々な症状があることが確認されていますが、英・マンチェスター大学は COVID-19 から回復した患者の中に聴力の悪化や耳鳴りの発生を認める事例が複数あったことを 2020 年 7 月 31 日に発表しました。この調査研究は COVID-19 に罹患した 121 人の患者に対して退院 8 週間後の時点で電話にて調査されたもので、16 人（13.2%）の患者に聴力の変化や耳鳴りがあることが報告されました。そのうちの 8 例で自己申告による聴力の悪化、また別の 8 例で自己申告による持続的な耳鳴りがあり、聴力の悪化と耳鳴りを併発した事例はなく、聴力が悪化した 8 例のうち 4 例と耳鳴りが発生した 8 例のうち 3 例は COVID-19 罹患前から難聴があったことが分かっています。

マンチェスター大学の研究者はこの結果をうけ、COVID-19 と聴覚変動の因果関係については慎重な姿勢を保ちつつも、「理論的には新型コロナウイルスが中耳や蝸牛などの聴覚系の一部を障害する可能性は考えられ、蝸牛は正常に機能しているが、聴覚神経による脳への音の情報伝達が障害されている状態である auditory neuropathy と呼ばれる聴覚障害が生じる可能性がある。また、auditory neuropathy は、新型コロナウイルス

との関連が示唆されているギラン・バレー症候群とも関係がある」と述べています。日本国内の専門家の間でも新型コロナウイルスには血管の細胞を破壊し、血栓を引き起こす特徴があるので、脳と聴覚の間の血管に血栓ができ、聴覚に影響を与える可能性を指摘する声があります。

一方、国内では 2021 年 2 月 4 日に国立国際医療研究センターの大曲貴夫医師が国内における COVID-19 の後遺症に関する調査を行った結果、調査対象の 63 例のうち 48 例（76.2%）で呼吸困難、倦怠感、味覚障害や嗅覚障害等、何らかの後遺症が発症していることを発表しており、今後、さらに COVID-19 の後遺症に関する調査が進められます。

「コロナでピンチ！耳トラブルの新常識」 NHK あさイチ 1/25 放映

NHK の人気番組「あさイチ」で「コロナでピンチ！耳トラブルの新常識！30代から始まる聴力低下」と題し、難聴関連の社会問題新常識が紹介されました。まず、スマートフォンなどで大音量の音楽を聞くことによって世界の若者のほぼ半数、およそ 11 億人が難聴になる恐れがあるということから、イヤホン難聴について聞いてよい音量と時間は、120 dB では 9 秒、110 dB では 28 秒、100 dB では 15 分など、具体的な数値が示されておりました。また、軽度難聴に対する補聴器の早期装用について、認定補聴器専門店が推奨される補聴器の形状の紹介があり、次のコーナーでは、耳の衰えとマスクが与える影響として、聞き間違えやすい単語を聞き取る実験を番組内で行い、マスク着用・パーテーション越しの会話・生活音がある環境下においては、子音の聞き取りが影響を受けるといった結果が示されました。続いて、聴力低下と認知症の関係について、難聴によって刺激が減ることは認知機能の低下をもたらす可能性があり、認知症の予防可能な 12 のリスク要因の中で最大の認知症リスク要因であることが示され、補聴器使用が認知症予防として推奨されていることが紹介されました。そのコーナーでは帝京大学医学部附属溝口病院白馬伸洋先生による補聴器を使用した聴覚トレーニングが紹介され、聞こえた言葉を追唱する訓練によって、会話の内容を聞き取る能力を高めることができるという報告がありました。また、耳鳴りについて、病院に通うほどの耳鳴りに悩む方はおよそ 300 万人いると言われており、2019 年に日本で初めて診療ガイドラインがまとめられたことが報告され、自宅で出来る耳鳴りの改善方法が紹介されました。以上、40 分のコーナーでしたが、現代における小児期以外の「難聴」に関連する社会問題がすべて盛り込まれた大変内容の濃い番組でした。

TOSHIN Hearing NEWS 発行元

 **東神実業株式会社**
トoshin補聴器センター

本社 : 〒550-0002 大阪市西区西本町2-4-7

T E L : 06(6531)2541 F A X : 06(6531)3398

U R L : <http://www.toshin-ha.co.jp/>